

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 4 号

令和4年 10月 5日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

9月 7日 (水)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

提案 佐々木 すみれ 先生 (西富岡小)

遠藤 恭兵 先生 (二ツ橋小)

司会 内藤 和貴 先生 (谷本小)

藤巻 裕祐 先生 (大曾根小)

記録 山口 曉風 先生 (小田小)

坂本 実 先生 (川和東小)

1 提案内容 単元名

単元名「地域の伝統を守るために ～相模人形芝居「下中座」～ (仮)」

2 提案者より

○材について

小田原「相模人形芝居」の5座ある内の「下中座」を取り上げる。

子どもたちにとって、なじみのない教材でも、子どもたちが本気で考えられるものにしていきたい。

動画配信サイトを活用して、「下中座」の紹介

下中座を選んだ理由…

☆10代～90代まで活躍。高校生の部活を指導するなど、若手育成に尽力。

座長Hさんの功績により、座員数を確保。(5座あるうちで唯一)

☆300年間、口伝による継承だったものを、若い世代に継承するにあたり35年かけて演技台本を作成することに変えた。←(本気の学習問題につながる)

○児童の実態

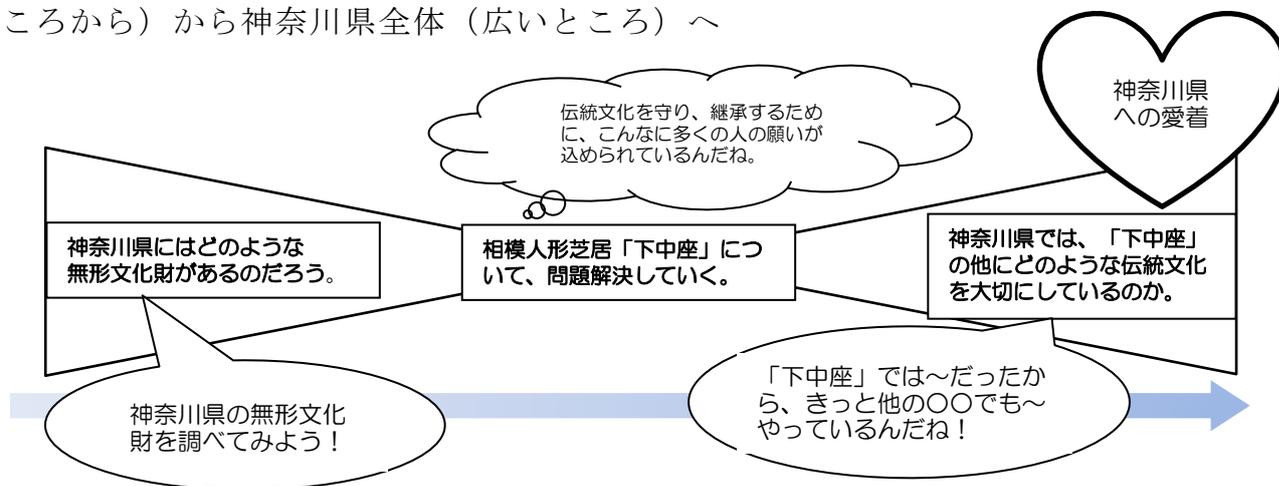
通塾児童が多いため、知識の差が二極化している。全員が同じ土台に立って考えられるような問題解決を子どもたちと楽しみたい。

3 検討事項

○体験活動の位置付けは単元中盤でよいか(指導案通り)、序盤がよいか。

→佐々木先生の意図は、まず自分で調べられることを調べる。その後に、体験活動を取り入れる。ただ、単元中盤の体験活動にいくまでに興味がわくのか不安…。

- ・ Hさん登場前の4時の後はどうか。
「もっと調べたい。」「どうしてこんなに続けているんだろう。」といった意欲につながる。
- ・ 単元の全体の流れは現状通りでよさそう。子どもの思考を考えると、事例（狭いところから）から神奈川県全体（広いところ）へ



○単元を見通す学習問題を立てた後、子どもが芝居の「歴史」に問いをもつには。

- ・ 感覚的に歴史を感じられるものを仕掛ける。（教室内の工夫など）
- ・ 江戸時代の浮世絵などにえがかれていないのか。
- ・ 「320年間すごい」と思わせる資料があると、子どもが主体的になる。

○その他

- ・ 無形文化財の「相模人形芝居」に子ども興味をもつための工夫があるとよい。
- ・ 教師が子どもに興味・関心を高めるために、紹介することも工夫の一つ。
- ・ 材がよい。
- ・ 人形浄瑠璃の「すごさ」「ほこり」を神奈川県にある「ほこり」を子どもにもってもらう工夫。例：音楽で文化を流す。
- ・ 事例を学習することで「〇〇さんてすごい」だけで終わるのではなく、「下中座ではこうだから、他の地域でもそうなんだろうな」などと、考えを広げられるとよい。
- ・ 「徳島県の阿波踊り」のような県民全員が知っているわけではない材だからこそ、難しい部分がある。
- ・ 伝統文化に込められたエッセンスを子どもたちがどれだけ考えられるかが大切。

1 提案内容 単元名

単元名「自然災害に備えるまちづくり ～予測不能な地震に備えて、自分たちにできること～」

2 授業者より

○単元について

- 導入は2時間
- ・ 1時間目は、県内の自然災害の年表、横浜市の地震の映像を材として考えている。
 - ・ 2時間目は 小学校周辺の防災標識の写真を教師が用意して、神奈川県や横浜市の行政側の取組に目を向ける。
 - ・ 3時間目で大きな学習問題を解決するための計画を立てる。

「神奈川県では、地しんに備えて、だれがどのような取り組みをしているのだろう。」

本時は選択、判断の時間を考えている。

「地しんに備えて、自分たちにできることは、なんだろう。」

○悩んでいること

- ・ 地震に目を向ける導入の材について工夫は他にもないのだろうか。
- ・ 本時が地震に備える内容であるため、地震の被害の内容を単元の中で早めのタイミングで位置づけたほうがよいだろうか。

3 単元の流れの検討

○単元の導入について

- ・ 地震の備えについて児童が着目するために地震の被害についての材を入れてみてはどうか。
- ・ イメージマップでは、水害など多様な考えが出てくる。→地震に絞る
- ・ 1時間目で地震に絞る 2時間目にどんな備えがあるのだろうか」と児童が着目できるようにしていけたら、3時間目の単元を見通す学習問題につなげられるのではないだろうか。
- ・ 4年生の学習として神奈川県のはたらきについて単元を通して、見ていく必要がある。そのために、県の働きについて種をまく。（前単元からの流れから行政の働きに目を向ける）
- ・ 市と県の災害時の役割の違いを確認しておく必要がある。
- ・ 単元の最初に「地震が起きたらどうなるんだろう。」などの小さな学習問題を立てて、自分の身近なところを少し調べ、出てきた疑問から大きな学習問題（単元を見通

す学習問題)を立てていく。

・横浜市は県に近い取り組みをしている現状を見ると枠組みとしてはこのままでも・・・

⇒児童から学習問題を考えられるような流れや県や市の働きについて今回、検討することができた。次回は、本時について検討していく。

4 全体

・2つの提案どちらも事例学習ではないので、学習したことをもとに、自分の身近なまちでも・・・と一般化していくことで選択・判断の考えが生きていく。

文責 山口 暁風 (小田小学校)